［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評 価 報 告 概 要 表

【評価実施概要】

事業所番号	4070703451
法人名	株式会社　エルゼ
事業所名	愛好の里グループホーム青春・明苑
所在地	北九州市八幡西区馬場山東1丁目26－20 （電　話）　093－618－7831

評価機関名	特定非営利活動法人　ヘルスアンドライツサポート　うりずん		
所在地	直方市知古1丁目6番地48号		
訪問調査日	平成　20　年　11月　10　日	評価確定日	平成20年12月5日

【情報提供項目より】（平成20　年　10　月　30　日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　17　年　11　月　1　日		
ユニット数	1　ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	8　人	常勤　6 人，非常勤　2　人，常勤換算　7　人	

（2）建物概要

建物構造	木造平屋づくり
	1 階建ての　1 階　～　1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	31,500　円		その他の経費（月額）	1日　350　円
敷　金				
保証金の有無 （入居一時金含む）	有　94,500円		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1，550　円			

（4）利用者の概要（　10月　30日現在）

登録人数	9	男性	2　名	女性	7　名
要介護1	3		要介護2	1	
要介護3	5		要介護4		
要介護5			要支援2		
年齢	平均　87.6 歳	最低	69　歳	最高	97　歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	千代クリニック　八幡厚生病院　二箇歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「愛好の里グループホーム青春・明苑」は、水鳥の遊ぶ隣接する池や紅葉の美しい公園を見渡せる住宅街の一角にある解放感あふれる一ユニットのグループホームである。平屋のバリアフリー構造で入居者が温泉と呼ぶ見晴らしの良い浴室が設置され、ウッドデッキの設置された三面がガラス窓の食堂と居間は入居者の憩いの場になっている。母体法人の会長宅と隣接した場所にあり、昨年ホームが隣組長をし、管理者が町内会副会長を担当したこで近隣と顔馴染みができ、参加した盆踊りやソーメン流し等の地域行事ではに椅子を用意してくれるなどの暖かいもてなしを受けている。恵まれた居住空間と環境の中で入居者はゆったりと穏やかに過ごしているが、ホーム開設4年目を迎え、職員は入居者が個性を失うことなく毎日を過ごせるように、入居者の趣味や楽しみを実現できる生活を支援している。今後も、理念である「愛情を持って明るく、楽しく共に笑える毎日を過ごします」の実現を目指し、運営推進会議を充実し、地域との交流を通じて、認知症の人の介護と予防について理解を得るための拠点として「認知症になっても大丈夫」を発信するグループホームになることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	この1年間積極的にサービス改善に取り組み、改善シートが作成されていた。入居者の情報、介護計画を職員が共有し介護に取り組めるように介護日誌を改良している。パンフレット作成、災害対応マニュアルの整備、職員研修計画、終末期に向けたケア方針の整備等に継続して取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	全職員で自己評価に取り組むことは出来なかったが、管理者、介護計画作成担当者、法人の事務総括者で作成し、職員とミーティングで内容を共有している。
重点項目②	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4、5、6）
	運営推進会議実施要領は整備されているが、昨年9月以降議題が見つからないため定期的に開催されていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7、8）
	毎月発行のホーム便りでホーム行事や暮らしぶり、職員の紹介、新しく入所された方等をお知らせしている。毎月利用料の支払いに家族が來所しているので、家族への連絡は定期的に行われているが、状況に応じて電話連絡をしている。毎月の預かり金は出納簿が整備され、職員、管理者の確認印、家族の確認印もある。地域福祉権利擁護事業の利用している入居者はいるが、パンフレットの整備や入居時に制度等の説明はしていない。今年度中に研修会に参加予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	昨年ホームが隣組長となり、管理者が副会長を務めている。入居者とともに市政だよりを配布し、地域住民としての関係が生まれ、参加した盆踊りやソーメン流し等の地域行事では椅子を用意してくれるなどの暖かい配慮を受けている。近隣の小学校とも交流があり、3年生がホームで歌を披露してる。

2. 評 価 報 告 書

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛情を持って明るく、楽しく共に笑える毎日を過ごします」との理念が共有空間に掲示されている。運営規程や重要事項説明書には、地域密着型サービスの方針である「地域との交流の下」が明記されているが、パンフレットには明記されていない。	○	地域密着型サービスとして入居者が地域の中で暮らし続けることを支援するためにも、パンフレットにも明記をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員採用時に伝えたり、スタッフミーティングで唱和し確認することで、介護計画に反映させている。開設4年目となり、入居者が個性を失うことなく毎日を過ごせるように支援している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年ホームが隣組長となり、管理者が副会長を務めている。入居者とともに市政だよりを配布し、地域住民としての関係が生まれ、参加した盆踊りやソーメン流し等の地域行事では椅子を用意してくれるなどの暖かいもてなしを受けている。近隣の小学校とも交流があり、3年生がホームで歌を披露してる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、今年度は職員の交代等で職員全員で取り組むことが出来なかったが、理念の共有や前回外部評価の改善に取り組でいる。	○	自己評価は職員全員で取り組むことで効果をもたらします。評価のねらいや、活用方法を理解していただき、外部評価の結果を踏まえ、今後も改善計画への取り組みをお願いします。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要領は整備されているが、昨年9月以降議題が見つからないため定期的に開催されていない。	○	運営推進会議は定期的に開催し、参加をお願いした自治会・民生委員など幅広い立場の意見をサービスの向上に活かされることを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年10月より、北九州市訪問介護員制度を活用し、月に1回訪問介護員の訪問を受けている。ポスターで来所日時をお知らせし、顔馴染みの関係作りをしている。地域包括支援センターには入院事例や福祉用具について相談をしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	地域福祉権利擁護事業を活用している入居者はいるが、制度等のパンフレットの整備や入居時の説明はしていない。今年度中に研修会に参加予定である。	○	パンフレットを整備し、入居時や状況に応じて随時制度等の説明や記録をお願いしたい。
４．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行しているホーム便りでホーム行事や暮らしぶり、職員の紹介、新しく入居された方等をお知らせしている。家族が毎月利用料の支払いに來所しているので、定期的に連絡しているが、状況に応じて電話連絡をしている。毎月の預かり金は出納簿が整備され、職員・管理者の確認印や家族の確認印もある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族会は発足していないが、夏のバーベキュー大会に大半の家族の参加があり、家族同士の交流の場になっている。運営推進会議開催時には家族全員へ通知し参加を呼びかけている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間は職員の離職者が多く、管理者は常に笑顔を心掛け、入居者が新規職員と馴染みの関係をつくりやすいように勤務配置に配慮している。家族には毎月発行する「愛好便り」で新規職員を写真付きで紹介している		
５．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	採用時資格、年齢、性別の条件はなく、雇用契約書、就業規則も整備されている。採用時に職場と家庭の両立が行われやすいように、勤務時間を考慮している。職員の健康診断を支援し、休憩室は特にないが夜勤時に休憩できるスペースを設けている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	ホーム内に身体拘束防止の指針を掲示しているが、身体拘束高齢者虐待防止マニュアルの整備はない。県社会福祉協議会主催の人権研修に参加予定である。	○	人権教育・啓発に関する研修受講や、身体拘束高齢者虐待防止マニュアルの整備をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	北九州市社会福祉協議会主催の年間研修計画は掲示されているが、職員の異動があり研修受講が出来ていない。今後は積極的に研修会参加に取り組む予定である。職員の悩みや意見は、管理者が対応している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会や地域事業者連絡会に加入していない。今年度は有料老人ホームの施設見学を実施している。	○	福岡県グループホーム協議会の加入や他のグループホームとの交流を通じて、職員の育成やサービスの質の向上など検討してみてはいかがでしょうか。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居制度を設けている。体験せず入居される場合は家族から情報収集を細かく行い、入居当初はホームの生活や人間関係に慣れてもらうため管理者が集中的にかかわり、安心感をもって生活していただくよう努めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	夏には、畑で入居者と共に作った野菜がホームの食卓に並ぶことが多くあった。職員は入居者同士がいたわり合う様子を見ることが元気につながると感じており、洗濯物干しや配膳等を入居者と一緒にしながら、ゆっくりとした時間を共有している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で、生活暦や趣味・職歴などを把握し、本人の意向などを常に聞き、入居者本位のサービスに取り組んでいる。これまでの暮らしのアセスメントの内容、本人・家族の意向が記載されている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしの中での気づきを、毎日の申し送りや毎月開催される職員全員参加のミーティグで意見を出しあい、介護計画を作成している。介護計画が日々の支援に反映されるよう介護日誌に記入され、職員が情報を共有しながら介護出来るよう工夫している。介護計画は入居者や家族に説明し、了解を得ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は2～3ヶ月毎に入居者や家族の意見に沿って見直しをしているが、訪問診療を月に2回、毎週口腔ケアを受けているので、状態の変化に伴い随時計画の見直しも行われている。診療記録は整備され、家族への報告記録もある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が対応できない場合は医療機関受診の支援をしている。散髪の得意な職員による理容サービスは入居者とのコミニケーションにもなっている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医や希望の医療機関の受診を支援したり毎月2回、訪問診療を受けている。入居者の状態や家族の要望は主治医に伝え、結果は家族に報告し、経過を記録している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合や終末期に向けた方針はなく、現在は対象者もないため具体的な話し合いに至っていない。	○	かかりつけ医、職員、家族と話し合いをもち、ホームが出来ること出来ないことを明確にした重度化や終末期における方針の整備をお願いしたい。家族への意向は入居時だけでなく、状況に応じて随時確認されることをすすめます。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるたもの日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録などは鍵の掛かる書棚に保管し、個人情報の保護に関して契約書に明記している。声かけは「○○さん」と穏やかな声で対応している。	○	個人情報保護に関する規程や利用目的を明記した書面を整備し、事業所内に掲示をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの敷地内に観音様が祀られ、毎日お茶を供えお参りする入居者や家族と毎月参りをする入居者も居る。入居者のほとんどは池や公園が見える居間で過ごすことが多い。自室での就寝をさみしがる入居者には、ホーム中央の畳の間での就寝を促すなどの配慮がある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が交代で献立を作成し、専任職員が季節の食材を調理したり手作りのヨーグルトのデザートなどの工夫があり、入居者は毎食完食している。個人専用の湯飲みや茶わん、箸を入居者が食卓に並べたりしている。入居者同士で食事の介助をするなど和やかな食事風景である。メニューを選ぶ楽しみも味わってもらいたいと外食なども検討している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者が温泉と呼ぶ見晴らしの良い浴室で、隔日毎にゆっくりと入浴してもらうように工夫をしている。入浴嫌いの入居者には声を掛ける職員を交代したり、仲良しの入居者同士で入浴するなどの工夫がある。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「今忙しいから洗濯物を干すの手伝ってもらえますか。」等日常の家事を声かけしながら、日々の暮らしの中で入居者の力を発揮してもらっている。ゆったりと毎日を過ごしたい入居者が多く、居間で入居者全員で過ごすことが多いが、ぬり絵や頭の体操などを取り入れ気晴らしを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周囲は住宅街と公園など恵まれた環境にあり、公園までの散歩や年間の行事計画で季節ごとの外出を計画している。		
（4）安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は鍵をかけないホーム運営に取り組み、入居者がホーム生活に関心を持てるようなケアに取り組んでいる。入居者が居間からウッドデッキに出て庭の花を見たり、敷地内の観音様をお参りする様子を職員はホームのどこからでも見守りができるようにしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年1回、地元消防団や消防署の協力で実施している。非常食等は2～3日分備蓄している。	○	非常災害マニュアルの整備、緊急連絡体制の周知とともに平素から交番や自治会と連携を図り、入居者の安全に対する配慮をお願いしたい。地域の協力については運営推進会議で提案されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日おおよそ1500Kcalの食事摂取量は入居者毎に記載しているが水分摂取量の記録がない。摂取量が少なくならないように入居者に嗜好や嚥下状態に配慮し、できるだけ自力摂取を支援している。体重を測定は10日ごとに行っている。排便には特に注意し観察と支援を行っている。	○	水分摂取量が高齢者の心身の動きを左右する重大要因であることを認識いただき、既往症等に配慮しながら一日おおよそ1500cc水分を摂取できる工夫をお願いしたい。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく開放的な共有空間でほとんどの入居者が、1日の大半を過ごしている。隣接する池に遊ぶ鳥たちや木々の様子に季節の移り変わりを感じることができる。職員は時間の経過と共にカーテンの開閉に気を使いながら、光や明るさに配慮している。水の流れる音や調理の音は入居者に安心感を与え、思い思いのソファーに座り、気のあった者同士おしゃべりを楽しんでいる。ホームの玄関前に畑があり、入居者と野菜や花をつくり、夏には毎日トマトが、花は食卓を飾るなど生活に潤いを与えている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にタタミを敷いたり、家族が宿泊するベッドを置いたり、テレビや位牌、家族の写真等、一人ひとりの馴染みのものを置き、習慣や好みに合わせた居室になっている。		